

平成29年度 島根県立松江東高等学校 学校評価表

評価計画			自己評価		学校関係者評価		次年度への改善策		
重点目標	具体的目標（評価項目）	目標達成のための方策	評価指標	評価	取組状況と課題	評価		意見	
人とつながって生きる力を向上させる（高まってくる人間力）	1	互いの人権を尊重し、互いに高め合う態度を育成する。（心の通った切磋琢磨）	人権・同和教育に関するLHRや講演会の充実を図る。教職員研修により教職員の人権意識を高める。	生徒の感想文。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。いじめアンケート・アンケートQ Uの分析。平素の生徒の観察。	B	人権・同和教育に関するLHRでは、学習指導案を実態にあわせて再検討するなど、その充実を図った。教職員研修も実施方法や内容を一新して効果があった。一方で、生徒の言動には課題が見られることがあった。	A	・学校内での取り組み（部活動、LHRなど）に対して、保護者の理解をさらに深め、一層の支援が出来る関係づくりが必要である。 ・いじめアンケートを学期ごとに行うことは抑止力につながって良い。いじめアンケートの内容を心理学等の専門家と連携して隠れがちになるいじめが浮き彫りになるようなものを作成してはどうか。 ・保健室の利用状況や本人の状況など、職員間の情報共有に努めながらも、個人情報であるということに今後も注意を払っていく。	今年度試行的にいじめアンケートを3学期も行ったが、これを次年度は当初計画に入れていく。また、生徒の言動にはその場での指導を大事にしている。 年度当初にホームページの部活動紹介コーナーを一新するなどして情報発信を綿密に行う。また、一人一人の役割がはっきりするようにして、より生徒の主体性を喚起していく。
	2	部活動、生徒会活動など課外活動への積極的参加を促す。	部活動紹介で入部を呼びかけ、活動の状況や成果を生徒に目に見える形で発信する。また、生徒会活動や委員会活動の機会を増やしていく。	部活動加入状況。HPや学校だよりでの情報発信の状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	A	部活動の加入率は90%を超えた。一方で、ホームページ等での活動状況の発信は十分とは言えないところもあった。学園祭等では生徒の主体的な姿も見られたが、個々の役割を明確にしていく必要がある。	A	・いじめアンケートを学期ごとに行うことは抑止力につながって良い。いじめアンケートの内容を心理学等の専門家と連携して隠れがちになるいじめが浮き彫りになるようなものを作成してはどうか。 ・保健室の利用状況や本人の状況など、職員間の情報共有に努めながらも、個人情報であるということに今後も注意を払っていく。	学年部では面談をこまめに行いながら、特別支援コーディネーターが中心となって連携をさらに密にして、早めの気づきと対応を行っていく。
	3	教育相談、特別支援体制の充実を図る。	各学年の生徒支援担当とも機能的に連携しながら、気づきシートや個別の指導計画なども活用し、支援や相談を効果的に行う。	対象生徒の状況。スクールカウンセラーの活用状況。気づきシートや支援計画・指導計画の作成・活用状況。	A	生徒支援委員会や職員会議などを通じて生徒の情報共有を全体で図りながら、適宜関係機関とも連携して、生徒を支援することはできた。スクールカウンセラーの時間数が足りないほど、そのニーズは年々増ってきている。	A	・いじめアンケートを学期ごとに行うことは抑止力につながって良い。いじめアンケートの内容を心理学等の専門家と連携して隠れがちになるいじめが浮き彫りになるようなものを作成してはどうか。 ・保健室の利用状況や本人の状況など、職員間の情報共有に努めながらも、個人情報であるということに今後も注意を払っていく。	学年部では面談をこまめに行いながら、特別支援コーディネーターが中心となって連携をさらに密にして、早めの気づきと対応を行っていく。
自己の未来を切り拓いていく力を向上させる（向かっていく学力）	4	学びのモチベーションを高め、自ら学ぶ態度を育成し、主体的学習者を育成する。	教育課程モデル事業を学校全体の取り組みとすることで、主体的に対話的で深い学びとなる授業を学校全体で展開していく。また、ETCの効果的な実施や課題の質や量を検討する。	教育課程モデル事業に関わるアンケート等。授業アンケートの結果。学習時間調査の結果。学習成績、実力テスト成績。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	教育課程モデル事業は軌道に乗つつあるものの、主体的学習者へと育成するには、より学校全体の取り組みにする必要がある。また、学習時間が全体的に少なく、課題もこなすだけの状況が見られる。	B	・学校内外を問わず生徒一人ひとりの個性を伸ばす教育を期待するとともに、PTA・保護者とのより一層の連携が望まれる。 ・土曜講座については、異学年間のペア学習など、新しい発想も取り入れ魅力あるものにしていく。 ・キャリア教育と夢の実現がしっかりと連動していくように、様々な取り組みで意識して欲しい。	カリキュラムマネジメントを機能させ、授業改善をより学校全体での取り組みにしていけるため、教科会や学年会での情報交換を密にする。学習の意義を生徒により伝えていく。 総合的な学習の時間の取組等の見直しを進めていく。また、その取組をポートフォリオ化していくことも試みていく。
	5	東高版キャリア教育の充実を図る。	地域、企業、大学等と連携し、3年間を見通したキャリア教育を準備する。生徒が主体的にライフデザインを考えるような仕掛けを工夫する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。	B	講演会や体験活動、総合学習など計画通りに実施できたが、担当部署の明確化や、より3年間を通じた取り組みにしていく必要がある。また、今年度新たに行った取り組みも整理して体系化していく必要がある。	B	・学校の理念やビジョンを、教員や生徒がしっかりと受け継ぎ共有して、その実現を図って欲しい。 ・家庭学習における課題の意義や計画的な取り組みについてきちんと生徒に伝えながら、課題と授業が連動するようにしていく。また、学習時間が増えていくための具体策や具体的展望を教員はしっかりと持つ。	教育課程実践モデル事業を通じて、授業評価もより有効に活用しながら、授業参観や校内研修が活発化するようになっていく。ICT機器の活用も、さらに進めていく。
	6	授業力、教師力向上に向けた取組（研修）を推進する。	公開授業などの校内研修を充実させるとともに、校外の研修や研究会に積極的に参加する。	公開授業・授業研究の実施・参観状況。授業アンケートの結果。校外研修、研究会等への参加状況。	B	教育課程実践モデル事業の推進もあって、授業参観や教員研修は例年よりも活発化した。また、まだまだ不十分である。2つの間（発問・作問）は、全教員が意識して取り組むことができた。	B	・学校の理念やビジョンを、教員や生徒がしっかりと受け継ぎ共有して、その実現を図って欲しい。 ・家庭学習における課題の意義や計画的な取り組みについてきちんと生徒に伝えながら、課題と授業が連動するようにしていく。また、学習時間が増えていくための具体策や具体的展望を教員はしっかりと持つ。	教育課程実践モデル事業を通じて、授業評価もより有効に活用しながら、授業参観や校内研修が活発化するようになっていく。ICT機器の活用も、さらに進めていく。
	7	面談や各種検討会を機能させ、学力の向上やキャリア発達を促す。	生徒面談、保護者面談を定期的に行い、進路検討会を活用して一人ひとりの学力向上や進路目標実現を支援し、「自立への道程」を考えさせる。	生徒・保護者面談の実施状況。進路検討会等への参加状況。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。	B	生徒面談はどの学年もこまめに行うことができた。進路ジャーナルや学年通信などを定期的に発行することで保護者にも情報発信を行うことができた。進路検討会への教員参加は、その意義をより伝えていく必要がある。	B	・学校の理念やビジョンを、教員や生徒がしっかりと受け継ぎ共有して、その実現を図って欲しい。 ・家庭学習における課題の意義や計画的な取り組みについてきちんと生徒に伝えながら、課題と授業が連動するようにしていく。また、学習時間が増えていくための具体策や具体的展望を教員はしっかりと持つ。	保護者への情報発信について、さらに力を入れていく必要がある。このため、学年PTAの持ち方なども再検討していく。
地域社会の未来と関わる力を育成する（広がっていく社会力）	8	地域社会へ明るい話題を提供する。	学校だよりやホームページを通して、学校行事や部活動の状況を積極的に発信する。また、保護者との連携を密にし、PTA活動を促進する。	学校だよりの発刊状況。ホームページの更新状況や閲覧状況。保護者アンケートの評価。	A	学校だより（EAST NEWS）やホームページなどを通じて、情報発信に努めたものの、保護者が満足するには更新頻度も含めまだまだ改善の余地がある。PTA活動は、学園祭にPTAで出店されるなど活発化してきている。	A	・生徒が自己と地域の関係を知るなかで地域への思いなどを醸成して行って欲しい。 ・学校だよりは、外部資源も活用しながら、トップ記事を工夫したりするなど、さらなる改善に努める。各部署から出される便りを集約するのも方法の一つである。 ・HPは、一定の評価はできるものの、さらに更新頻度を上げ、情報発信に努める。部活動関連はもちろん、卒業生関連も充実させる。 ・生徒が主体となって活動するような行事や場面をさらに増やしていく。学校新聞などはどうか。	部活動紹介コーナーの刷新など、HPをさらに充実したものにしていける。学校だよりはもちろん、様々な方法を通じて保護者や地域への情報発信を模索していく。 体験や気づきを、今後の生活に結びつけ、さらに学習意欲の向上につなげていくためにも、計画とそのねらいを明確にしてその充実を図っていく。
	9	地域社会への理解と貢献意欲の向上を図る。	幼小中大との交流や協働、企業や社会人との連携など地域資源を生かした総合的な学習の時間等を推進する。	キャリア教育に関わる諸活動の事後アンケートの結果。生徒アンケート・保護者アンケートの評価。地域の方々の声。	A	幼小との交流活動や地域ボランティアなど活発に活動がおこなわれた。企業訪問や社会人講話などはとても有意義であった。こうした体験や気づきを、今後の生活に結びつけていくことをより意識していく必要がある。	A	・生徒が自己と地域の関係を知るなかで地域への思いなどを醸成して行って欲しい。 ・学校だよりは、外部資源も活用しながら、トップ記事を工夫したりするなど、さらなる改善に努める。各部署から出される便りを集約するのも方法の一つである。 ・HPは、一定の評価はできるものの、さらに更新頻度を上げ、情報発信に努める。部活動関連はもちろん、卒業生関連も充実させる。 ・生徒が主体となって活動するような行事や場面をさらに増やしていく。学校新聞などはどうか。	部活動紹介コーナーの刷新など、HPをさらに充実したものにしていける。学校だよりはもちろん、様々な方法を通じて保護者や地域への情報発信を模索していく。 体験や気づきを、今後の生活に結びつけ、さらに学習意欲の向上につなげていくためにも、計画とそのねらいを明確にしてその充実を図っていく。
	10	生徒の意識の中に「地域化」を図る。	挨拶の励行や校歌斉唱、清掃活動、学校設備や地域資源の有効利用を通じて、地域や学校の一員であるという意識を育てる。	生徒アンケート・保護者アンケートの評価。平素の生徒の観察。地域の方々の声。	A	挨拶の励行など接遇や清掃活動の取り組みなどは、おおむね良好であるが、より主体的に行われるようにしていく必要がある。省エネ・経費節減、ゴミの削減・分別について、生徒・教職員とも、その意識をさらに高めていく必要がある。	A	・生徒が自己と地域の関係を知るなかで地域への思いなどを醸成して行って欲しい。 ・学校だよりは、外部資源も活用しながら、トップ記事を工夫したりするなど、さらなる改善に努める。各部署から出される便りを集約するのも方法の一つである。 ・HPは、一定の評価はできるものの、さらに更新頻度を上げ、情報発信に努める。部活動関連はもちろん、卒業生関連も充実させる。 ・生徒が主体となって活動するような行事や場面をさらに増やしていく。学校新聞などはどうか。	生徒会の保健委員会を中心に、清掃活動への取り組みを強化する。授業はもちろん、学年会や部活動での指導を通じて、さらにふるまいの向上に努める。